Noritake

第146期 株主通信

2026.04.01 >>> 2026.09.30

目次

P1 トップメッセージ
P2 業績ハイライト
P3～5 事業別の概況
P6～7 特集
P8 株主還元／株式情報
P9 会社概要

証券コード：5331

ノリタケ株式会社



代表取締役社長
東山 明

Top message

株主の皆様には、平素より当社をご支援いただき、心より厚く御礼申し上げます。

Q.1 当中間期の業績と通期の見通しを教えてください。

A.前年同期比で増収増益です。計画に対して順調に進捗しています。

当中間期の連結業績は、売上高788億57百万円、営業利益78億38百万円、経常利益100億2百万円、親会社株主に帰属する中間純利益78億83百万円となり、いずれも中間期として過去最高となりました。好調なAI・データセンター関連の需要を背景に、エレクトロニクス向け製品が伸長いたしました。
通期見通しについては、売上高1,600億円、営業利益145億円、経常利益180億円、親会社株主に帰属する当期純利益180億円であり、いずれも過去最高を更新する見通しです。

Q.2 第13次中期経営計画の進捗状況を教えてください。

A.成長領域への事業転換と新事業の創出に向けた取り組みが、着実に進展しています。

第13次中期経営計画は、VISION2030の実現に向けた「成長基盤の確立」の期間と位置づけ、3つの骨子に沿って取り組んでいます。まず「強固な収益基盤の構築」では、自動車やAI・データセンター関連の需要拡大を見据え、MLCC用材料の生産能力増強やヒート事業の機能の再編、成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）向け製品の拡販を進めるとともに、価格適正化・原価低減による収益力の強化やPFAS除去装置など新製品の事業化に取り組んでいます。また、「成長加速に向けた投資」では、スタートアップ企業との協業により大規模炭化設備を納入するなど新事業の創出に取り組み、「経営基盤の高度化」では人的資本経営やDXを推進しています。これらを着実に進め、中期経営計画の達成と企業価値の向上につなげてまいります。

Q.3 株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

A.さらなる成長に向けた変革を、着実に進めてまいります。

VISION2030の実現に向け、成長領域（環境・エレクトロニクス・ウェルビーイング）への事業転換や投資を進め、ノリタケグループのさらなる成長と企業価値の向上につなげてまいります。変革を恐れず挑戦を続けてまいりますので、株主の皆様には今後ともご期待、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

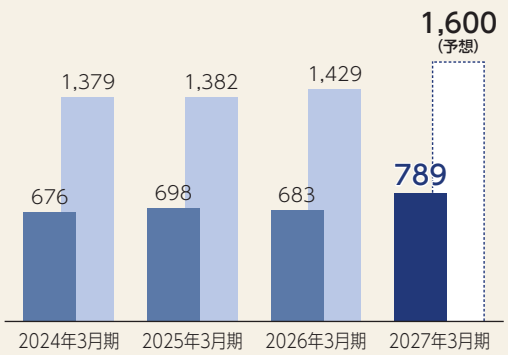
業績ハイライト

売上高

789億円

前年同期比
15.4%増

通期 中間期 （単位：億円）

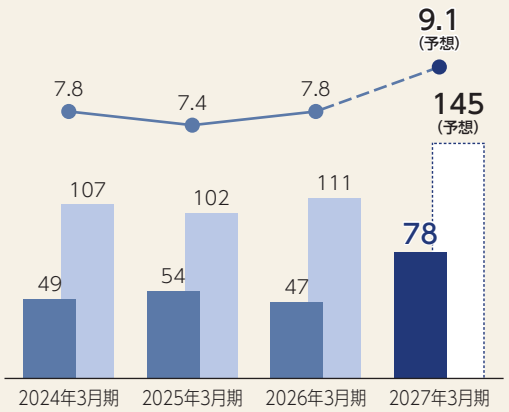


営業利益／営業利益率

78億円

前年同期比
65.3%増

通期 中間期 通期営業利益率 （単位：億円、%）

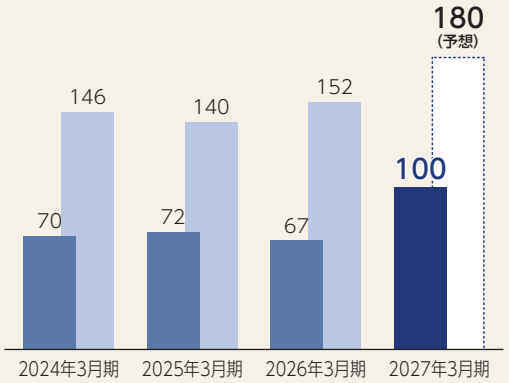


経常利益

100億円

前年同期比
50.1%増

通期 中間期 （単位：億円）

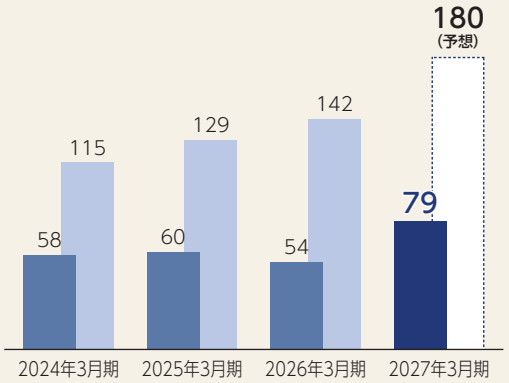


親会社株主に帰属する中間（当期）純利益

79億円

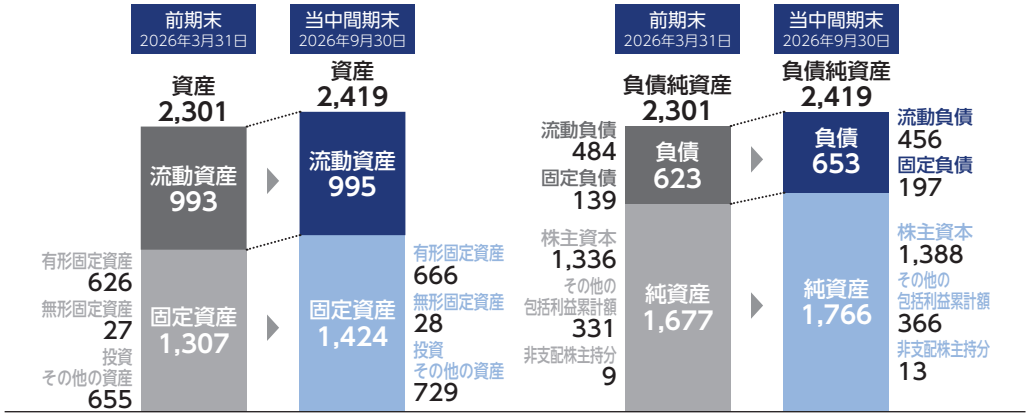
前年同期比
45.4%増

通期 中間期 （単位：億円）

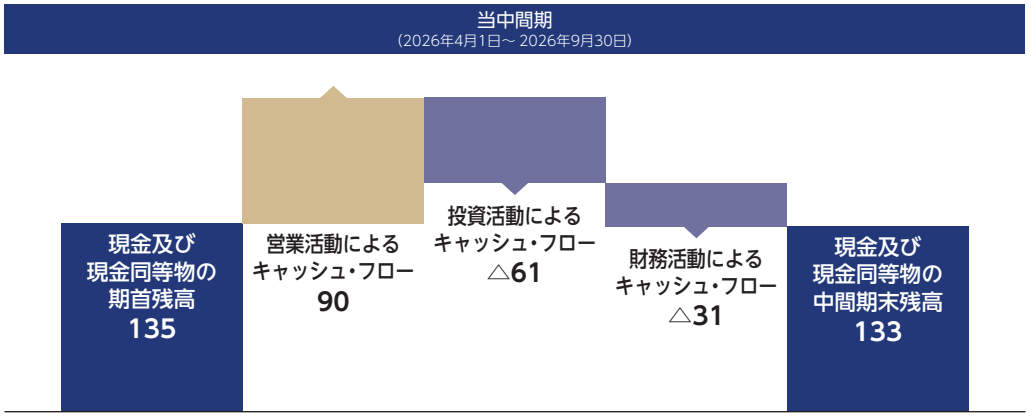


連結財務データ

中間連結貸借対照表 （単位：億円）



中間連結キャッシュ・フロー計算書 （単位：億円）



事業別の概況

工業機材事業について詳しくはこちら ▶

工業機材事業



主要製品

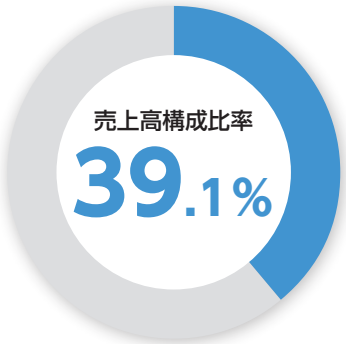
研削砥石、ダイヤモンド工具、CBN工具、オフセット・切断砥石、
研磨布紙、研削・研磨関連商品（研削油剤等）

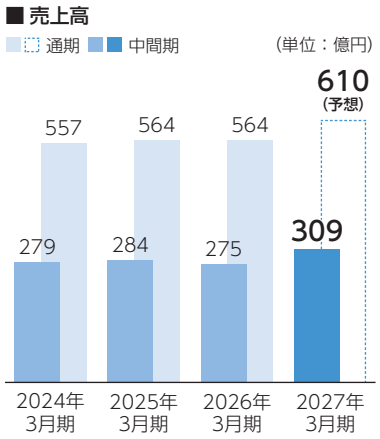
売上高

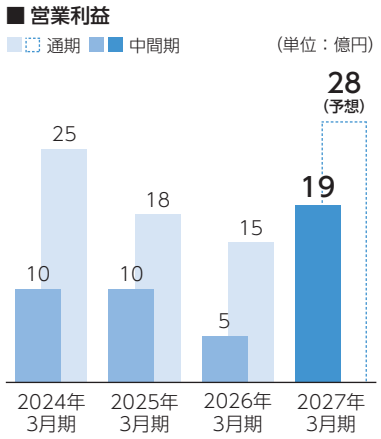
309億円　前年同期比 12.1%増

営業利益

19億円　前年同期比 295.2%増







ポイント解説

売上高は国内外の販売増等により増収となり、営業利益は価格改定の効果や為替の影響等により増益となりました。

オーダーメイド品

- 国内では、自動車・軸受業界の生産増加や鉄鋼向けの販売増に加え、価格改定の効果もあり、売上は増加
- 北米の軸受向けは減少したものの、東南アジアの自動車業界の生産回復や中国の軸受向けの好調により、海外全体では売上が増加
- 成長分野である電子・半導体向けは堅調に推移

汎用品（オフセット・切断砥石）

- 国内では価格改定の効果に加え、新製品の販売が好調に推移
- 海外では米州などが堅調に推移

汎用品（研磨布紙）

- 国内及びアジアのエレクトロニクス向け製品が堅調に推移

事業別の概況

セラミック・マテリアル事業について詳しくはこちら ▶

セラミック・マテリアル事業 ※当期より食器事業はセラミック・マテリアル事業に編入しております。



主要製品

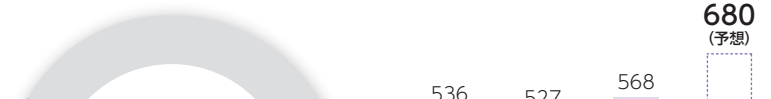
電子ペースト、転写紙、画付原料、厚膜回路基板、石膏、セラミックコア、蛍光表示管及び同モジュール、電子部品材料、セラミック原料、陶磁器食器、その他食器関連商品、装飾・美術品等

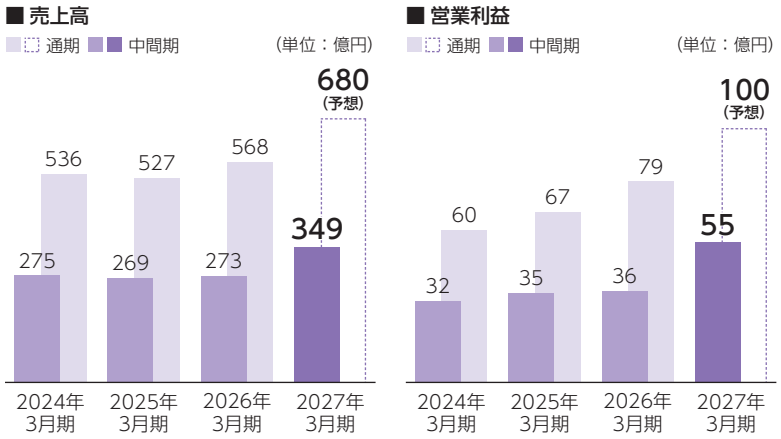
売上高

349億円　前年同期比 28.0%増

営業利益

55億円　前年同期比 51.5%増





ポイント解説

売上高は積層セラミックコンデンサ用材料等の販売増により増収となり、営業利益は販売及び生産量の増加により増益となりました。

電子ペースト及び電子部品材料
- 積層セラミックコンデンサ用材料は、自動車、データセンター及びAIサーバー向けが堅調に推移

セラミックコア
- 交換需要及び新規需要が共に堅調

石膏
- 海外の建材関係が堅調

蛍光表示管
- 国内・海外共に堅調に推移

厚膜回路基板
- 米国向けの医療センサー用が減少

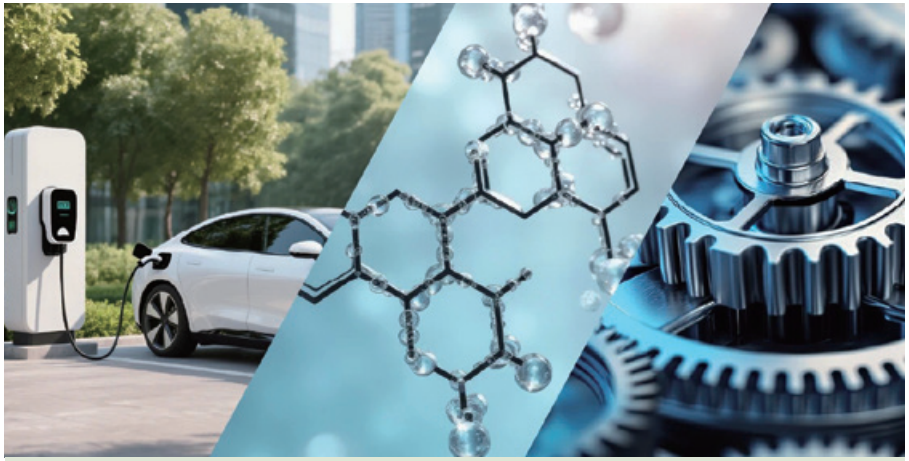
セラミック原料
- 半導体及びディスプレー関連向けは好調に推移した一方、耐熱ガラス用は減少

食器
- 食器部門の売上高は36億円（対前年同期比14.1％増加）、営業損失は1.1億円（前年同期は2.5億円の営業損失）
- 為替の影響及び関連会社の連結子会社化もあり、売上は増加
- 国内ではレストラン向け、オンライン及び直営店での販売が堅調
- 海外では米州及びアジア向けの販売が増加

事業別の概況

エンジニアリング事業について詳しくはこちら ▶

エンジニアリング事業



主要製品

焼成炉、乾燥炉、混合装置、濾過装置、超硬丸鋸切断機、コンクリートカッター等

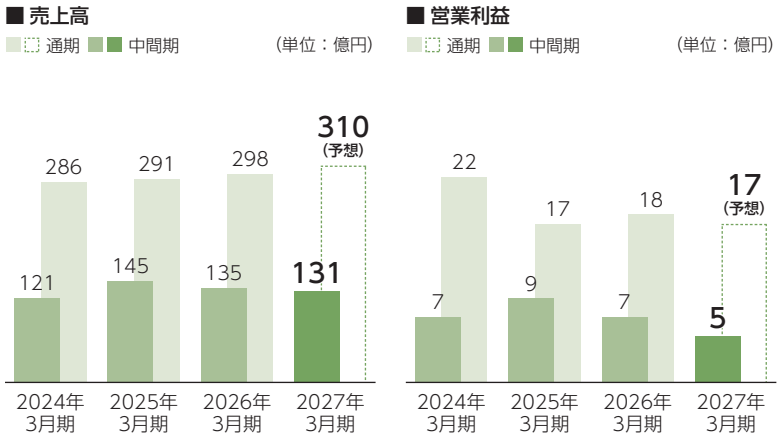
売上高

131億円　前年同期比 3.2%減

営業利益

5億円　前年同期比 23.7%減





ポイント解説

売上高は混合装置及び濾過装置の販売減少等により減収となり、営業利益は減益となりました。

焼成炉及び乾燥炉
- エレクトロニクス向けは堅調に推移した一方、リチウムイオン電池向けが減少

混合装置及び濾過装置
- 半導体・食品向けは堅調に推移した一方、自動車・工作機械向けは顧客の設備投資が低調

超硬丸鋸切断機
- 国内向けの販売が増加

ロードカッター
- 公共工事向けの需要は低調に推移した一方、価格改定前の駆け込み需要により、売上は増加

特集 Ⅰ. 新たな価値の創造に向けて、成長領域への挑戦を加速

成長領域への注力

電子・半導体市場拡大を見据えたノリタケの開発品

近年、自動車の高知能化やEV化等を背景にパワー半導体の採用が増加しています。ノリタケでは、こうした成長分野を支える技術開発に注力しています。

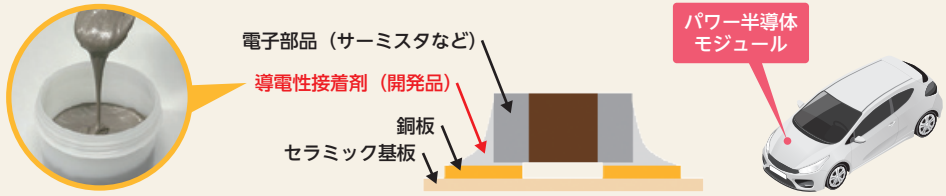
1 175℃にも耐える「導電性接着剤」

高耐熱

パワー半導体は動作時に高温になるため、周辺に搭載される電子部品にも高い耐熱性が求められます。電子部品を基板に固定する際に用いられるはんだは使用温度が約125℃であり、パワー半導体モジュール内では高温や急激な温度変化によって接続部分にひび割れが生じることが課題でした。開発した導電性接着剤は、175℃の高温環境に対応し、厳しい温度変化を繰り返してもひび割れが生じない高い耐久性を実現しました。これにより、車載などに使用される電子部品の信頼性向上に貢献します。

ここにノリタケ！

パワー半導体モジュールの中で、温度センサーなどの電子部品を固定する材料です。



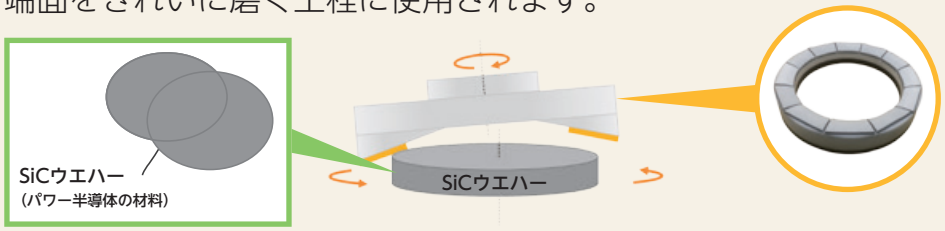
2 水のみで研磨できる「LumiDia」

水のみで研磨

SiCウエハーの製造工程では、ダイヤモンドスラリーを用いてウエハー表面を磨いていますが、使用後のスラリーは廃棄物となるほか、ウエハー外周部は研磨が難しいことが課題です。「LumiDia」は、ダイヤモンド砥粒を研磨パッドに組み込むことで、水だけで外周部分を精密に磨くことを可能にしました。これにより、ウエハーの欠けや割れを抑え、製造時の不良や産業廃棄物の削減に貢献します。

ここにノリタケ！

パワー半導体に使われるSiCウエハーの製造工程で、ウエハーの端面をきれいに磨く工程に使用されます。



特集 Ⅱ. 成長投資と事業構造改革を着実に推進

強固な収益基盤の構築として、港エリア、小牧事業所などに投資し、成長領域への事業転換を進めています。
また、合理化・収益改善も同時に進めることで、事業構造改革も着実に実施し、成長を目指しています。

1 MLCC用材料の生産能力を増強

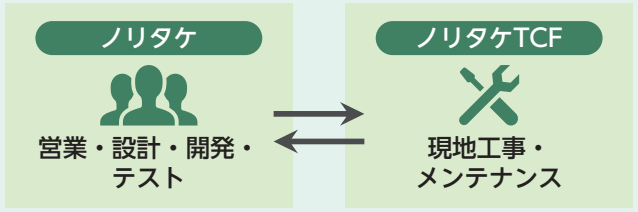
自動車やAIサーバーなどの需要拡大に対応するため、2026年4月に完成した港工場の新棟を活用し、MLCC用材料の生産能力を増強します。2027年度には2025年度比で約10%の生産能力増強を計画しており、今後も市場動向を見ながら段階的に対応していきます。





2 成長領域に向けてヒート事業を効率化

小牧事業所にテストセンターと組立工場を集約し業務効率化を図ります。これまで製品別で役割分割していたノリタケとノリタケTCFを機能で分けることで顧客対応力を向上させ、エレクトロニクス分野向け加熱装置の拡大につなげていきます。





3 食器事業の黒字化とその定着

2026年4月に食器事業をセラミック・マテリアル事業に編入し、体制のスリム化と事業運営の効率化を進めています。また、スリランカ工場のセラミック・マテリアル事業全体での活用を通じて、事業の黒字化とその定着を目指します。





株主還元

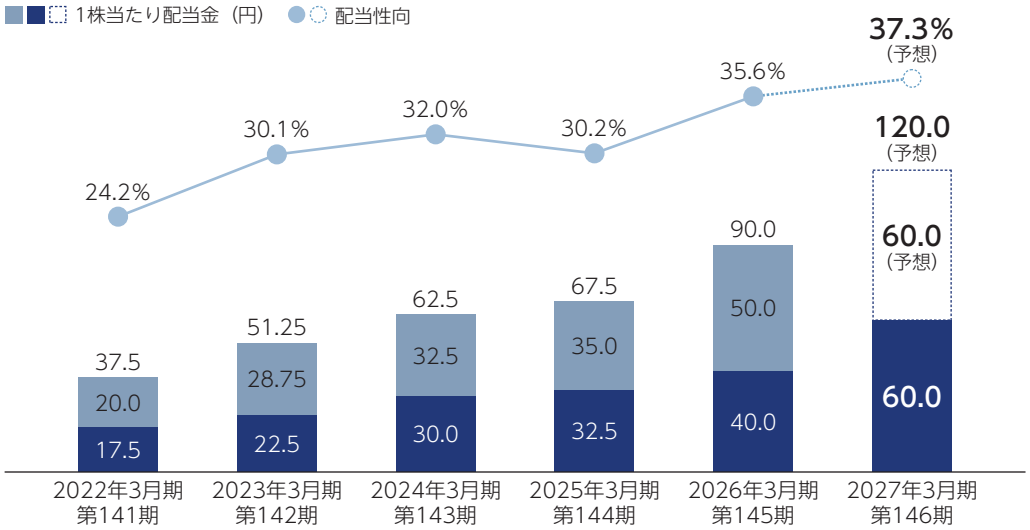
配当金

配当方針

長期にわたる安定的な配当の継続と通期の連結配当性向35％以上を配当政策の基本方針とし、財務状況や今後の事業展開などを総合的に勘案のうえ、成果の分配を実施いたします。
また、第13次中期経営計画期間（2026年3月期～2028年3月期）においては、1株当たり年間70円（2026年4月1日付株式分割後ベース）を下限とした累進配当を実施し、機動的な自己株式取得とあわせ、総還元性向50％以上（3期累計ベース）を目指してまいります。

中間配当

1株当たり60円とすることといたしました。
持続的な企業価値向上を通じ、安定的かつ継続的な株主還元の充実に努めることで、株主の皆様のご期待にお応えしてまいります。
今後ともノリタケグループに変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



※2026年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
2022年3月期～2026年3月期の配当金についても、比較の便宜上分割後を基準とした数値を記載しております。

株式情報

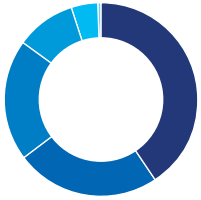
株主メモはこちら ▶

株式の状況（2026年9月30日現在）

発行可能株式総数	159,000,000株
発行済株式の総数	56,206,996株
株主数	17,114名

株式分布状況

所有者別株式分布状況



	構成比（%）	株式数（千株）
金融機関	40.81	22,936
外国法人等	24.14	13,567
個人・その他	20.13	11,312
その他の法人	9.97	5,606
金融商品取引業者	4.61	2,592
自己株式	0.34	194

大株主

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	5,702	10.18
明治安田生命保険相互会社	5,164	9.22
第一生命保険株式会社	3,228	5.76
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	1,712	3.06
日本生命保険相互会社	1,536	2.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（役員報酬ＢＩＰ信託口・75947口）	981	1.75
ノリタケ取引先持株会	892	1.59
株式会社三菱ＵＦＪ銀行	878	1.57
ＪＰモルガン証券株式会社	857	1.53
ＮＧＫ株式会社	838	1.50

（注）持株比率は自己株式（193,564株）を控除して計算しております。

会社概要（2026年9月30日現在）

会社情報はこちら ▶

創立	1904年1月1日（合名会社）
設立	1917年7月25日
資本金	156億3,230万4,225円
本社	名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
従業員数	1,757名（連結4,999名）

抽選でギフト券を進呈！

株主アンケート

株主の皆さまの声をお聞かせください

コエキク

下記へアクセスいただき、
アンケートサイトにてご回答ください。

アンケート回答はこちら ▶

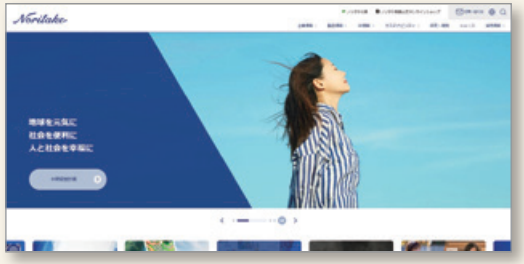
サービス運営会社：株式会社プロネクサス
お問い合わせ：コエキク事務局　koekiku@pronexus.co.jp

HPのご案内

コーポレートサイト

当社の企業情報や製品情報などを詳しく紹介しています。

https://www.noritake.co.jp/ ▶



ノリざかりな成長分野へ挑戦中！ノリタケ。

当社のCMです。
当社事業についてもご紹介しています。

https://www.noritake.co.jp/norizakari/ ▶



サステナビリティ

当社のサステナビリティの取り組みをご紹介しています。

https://www.noritake.co.jp/sustainability/ ▶

Topics

◆ 当社所属アスリート社員 松代龍治選手、愛知・名古屋2026アジア競技大会で銅メダル獲得

当社所属のアスリート社員である松代龍治選手が、愛知・名古屋2026アジア競技大会のカヌースプリント男子カヤックフォア500mに日本代表として出場し、銅メダルを獲得しました。競技会場の三好池には多くの従業員が駆け付け、松代選手に声援を送りました。松代選手は2024年に公益財団法人日本オリンピック委員会の就職支援制度「アスナビ」を通じて入社しました。当社は、競技と仕事の両立を支援するとともに、挑戦を続けるアスリートを応援することで、社内の一体感の醸成やスポーツ振興を通じた社会貢献に取り組んでいます。

